

A.S. メディア創造学科・2 年次

1. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

“好きな英語”を、実際に生活圏で使う事で、“使える英語”にしたくて、また、価値観を広げたり、メンタル面も成長させたりして、頼もしい人間になりたいという思いから、中学生の頃から一年以上の長期留学をしたいと思っていました。そこで、協定留学制度が充実している同志社女子大学に進学しました。1 年生の春学期から、国際課にある国際交流に関するチラシや資料をよく見ていました。そこで、フィリピンのトップ大学への協定留学制度があることを知り、夏休みに入る前にチャレンジしてみることに決め、そこから IELTS の勉強を少しずつ始めました。フィリピンを留学先に選んだ理由は、欧米圏に行く金銭的余裕がなかったことから、近くて物価も安めのフィリピンに興味を持ち始め、さらに明るくてポジティブな国民性がある事を YouTube 等から知り、そんな国民性を私も吸収してみたいなと思い、より関心を持ち、また発展途上国にあえて行くことで、先進国では気付けない学びがあるかなとも思ったからです。

② 留学を目指してから出願までの英語学習方法

フィリピン協定留学に必要な語学要件は、IELTS6.0 以上でした。IELTS は、4 技能全てが試験に含まれますが、私はまず、机に長時間座らなくても出来るような、英単語の暗記(ターゲット 1900 や Quizlet、WordHolic など)や、リスニング練習(TED トークや BBC 6Minute English など)を、移動時間やちょっとした隙間時間になるべくするように意識しました。スピーキング対策には、スパトレという、IELTS ライティング添削と面接試験対策の教材がある最安オンライン英会話を使用しました。何度も本番と同じ流れで練習する事が出来たので、効果的でした。また、同女国際課にある ChatRoom をほぼ毎週利用して、面接練習をしたり、ライティングの添削をしてもらったりしました。リーディングの練習としては、毎日登校時に一つ、英語の記事(スマートニュースアプリか、レシピというアプリ)を読むようになるべくしていました。受験を決意したのは夏休みでしたが、10 月くらいから、実際に時間を計りながら、過去問(同女国際課の ESSR の教材とパソコンを使用)を沢山解き始めました。また、これらの過程で出てきた分からない単語などは、順次英単語アプリに入れて、覚えるようにしていました。私の場合は、机に座って勉強を始めたのはギリギリでしたが、日頃の移動時間などに欠かさず、英単語、リスニング、英語記事を読むなどコツコツした事が、最終的に効果的だったのではないかと思います。

③ 留学決定から出発までの準備期間

フィリピンについての基礎知識や日本との関係性などを軽く調べたりしました。留学期間が、2 年の秋学期と 3 年の春学期と被っていたので、ゼミの先生と留学中と留学後どうゼミ

に参加するかの相談をしました。留学先大学に提出が必要な書類を準備したり、健康診断書を英語で書いてもらえる病院を探して依頼したり、希望科目を留学先大学に送ったり、寮の申請、チェックイン日時の確認メールを送ったりしました。また、留学先の大学に通っている、または通っていた YouTuber の Vlog 動画などを観たりして、向こうでの雰囲気や服装を参考にしたりもしていました。そして、実際に同じキャンパスへ留学に行った先輩にお話を聞いて、具体的な物価や費用等を教えてもらいました。また、語学面では、NativeCamp を利用して、オンライン英会話をしたり、独り言英会話をしてみたり、英語の YouTube 等を聞いて、とにかく英語になれるようになるべく努力しました。ChatRoom も継続して毎週活用しました。

④ 現地到着後

母の知り合いの日本人の方がフィリピンに住んでおられ、空港到着後、その方が車で空港まで迎えに来てくださり、寮まで送っていただきました。私は、同女の授業があり、現地のオリエンテーションに参加出来ませんでした。バディという、留学生とペアになり何でも相談に乗ってくれて助けてくれる現地学生がいたので、その子に履修登録を手伝ってもらったり、分からないことは教えてもらいました。また、先に寮に着いていた日本人留学生の子たちに、手続きの仕方を教えてもらいました。スタッフの方も優しい方でした。分からないことは、すでに経験した人に聞き、お互いに助け合っていました。また、同じバディを持つ日本人の子と、枕やトイレトーパーなど必要な日用品を買いに、近くのモールに買い出しに行きました。オリエンテーションには参加できませんでしたが、その子のルームメイトがキャンパスツアーをしてくれて、とてもありがたかったです。

⑤ 語学研修期間

私は語学研修期間はありませんでした。

⑥ 正規科目履修期間

◆ 大学の施設・環境について

アテネオ・デ・マニラ大学は、ある程度は発展した地域である首都圏メトロマニラの中のケソン市にあるため、近くにモールがあったり、マクドやジョリビー、サブウェイなどの食べ物屋さんや、スタバなどのカフェも学校の目の前があるので便利です。お店の店員さんとのやり取りは、基本簡単な英語で全て通じました。また LRT2（マニラ・ライトレール・トランジット・システムの路線）という電車の駅がトライシクルで 5 分くらいの場所にあるため、電車で出かけることもできます。学校の周りは比較的治安が良かったので、昼間は一人で出歩くことができました。夜遅くは、一応なるべく一人での外出は控えるようにしていました。キャンパス内は、出入り口ごとにガードの人がいて、ID を見せないと通過する事ができない為、セキュリティが厳しかったです。でもガードの方々は、みんな笑顔で挨拶してくださり、道に迷っても優しく教えてくれるのでとても頼れる存在でした。学内に食堂が

複数ある為、気分で食堂を変えることも出来ました。また、キャンパス内には、木が沢山植えられていて、緑に包まれているところが、バイクやジブニー等の乗り物の騒がしい学外とは違って、落ち着いていたので、すごく良かったです。キャンパスの広さも大きめで、開放感がありました。教室は、ほとんどクーラーが付いていましたが、付いていない教室もありました。図書館等、自習に使えるスペースもキャンパス内に複数あり、よく使用していました。

◆ 履修科目

< First Semester >

・ Audience Studies

メディア創造学科生として、“視聴者”に着目した授業が面白そうだと思い履修しました。私以外全員 4 年生でしたが、先生がとても優しく、またグループメイトも優しく沢山助けてくれました。主に“メディア製作者”と“視聴者”の関係性等について、普段私たちが関わるメディアの具体例と繋ぎ合わせながら学んだため、とても興味深く面白かったです。週 2 回 1 時間半、英語で開講されました。

・ Theories of Human Communication

基礎的で簡単なのかなと思ったのと、コミュニケーションに関する理論を学ぶ事は何かと役立ちそうと思い履修しました。ただ意外と 3 年生が多く基礎の次くらいのレベルだと感じました。コミュニケーションに関する理論を網羅的に学び、またそれらを生活での実体験と結びつけたりしました。コミュニケーションを理論として学術的に学べる事が興味深く、面白かったです。週 2 回 1 時間半、英語で開講されました。

・ Elements of Screen Arts

映画に関する授業は、留学前に同女で既にいくつか履修していたので、理解しやすいかなと思い履修しました。映画を構成している要素(ストーリー、ミザンセーン、カメラワーク等)の使い方とその効果について、実際に授業中に映画を観て学びました。初めはハリウッドの名作映画を中心に観て、後半は世界の色々な国の映画を観て文化的な背景や違いについても学びました。授業時間に色々な名作映画を観てクラスメイトの意見等も聞けることが良かったです。週 1 回 3 時間、英語で開講されました。

・ Social Media Journalism

ジャーナリズムについて学んでみたいと思っていた事と、さらにソーシャルメディアに特化しているのが現代的でとても面白そうだと思い、履修しました。ジャーナリズムとは何かについての基本や、ソーシャルメディアがそれにどの様に使用され、社会にどのような影響を及ぼしているか、及ぼせるのかについて、様々な実例を元に学びました。また各 SNS の特徴や、国別の使用のされ方などを具体的にデータ数値で学べたりもして、とても興味深かったです。週 1 回 3 時間、英語で開講されました。

<Second Semester>

• Global Voices and Encounters

基礎的で簡単な授業を受けたいと思ったのと、英語文学を学ぶと同時に世界の様々な問題についても学べるのが良いなと思い履修しました。英語文学の授業でしたが、短めの詩を取り上げることが多かったです。各文学内での言葉の使われ方や選び方に注目したり、そこに含まれるグローバルイシューについて話し合ったり、また国語の授業の様に、生徒が詩から感じたことを率直にシェアしたりもしました。一年生向けの必須授業で、とてもラフな雰囲気良かったし楽しかったです。週 2 回 1 時間半、英語で開講されました。

• Korean Popular Culture

自分の中に引き出しがある程度あり、ディスカッションにより積極的に参加出来そうな授業だと思い履修しました。ポピュラーカルチャーとは何か、韓流ドラマやアイドルが大成功した社会的背景や戦略について学び、また、それとフィリピンとの比較、戦略や適応の可能性などを話し合いました。先生を含めて、K-pop ファンの子どもたちが集まっていて、ラフな雰囲気がとても楽しかったですし、韓国人留学生の子ども 1 人いて、フィリピン・日本・韓国の 3 カ国の視点から韓流について考える事ができて興味深かったです。週 2 回 1 時間半、英語で開講されました。

• Communication for Development

開発学に関する授業を取りたかったのと、既にとった友達たちが勧めてくれていたので履修しました。社会を開発/改善していくための活動をする際に、重要なコミュニケーション方法について、様々な提言活動の中で使われた具体例を通して学びました。外部講師を招いたワークショップも授業内に何度かあり、また、開発学を専攻している学生もいて、みな政治や社会問題に対しての意識が高く、とても刺激的で面白い授業でした。ポルトガルからの留学生も 1 人いました。週 2 回 1 時間半、英語で開講されました。

◆ 授業、レポート、定期試験

<First Semester>

• Audience Studies

事前に課題として出されたリーディングの内容を、授業でもう一度分かりやすく、具体例などを挙げて解説するという授業形式でした。最初は先生が解説していましたが、途中からはグループに分かれ、学生が先生の代わりになり、授業時間を丸々使って解説をし、ディスカッションを行う、ディスカッションリーダーシップを実践しました。課題の進め方や、リーディングの理解できないところなど、とにかく分からない事は、クラスメイトや先生にすぐ聞くようにしていました。途中一度、クリティカルエッセイというレポート課題がありました。また、学期後半はグループで好きなリサーチテーマを決めて、リサーチし合い、その結果をリサーチペーパーにまとめて、またそれを 5 分の動画とパワーポイントにまとめて発

表し、フィードバックをもらうオーディエンスカンファレンスを実践しました。授業やグループ課題の時にディスカッションをする機会が多くありましたが、コンセプトが難しかったり、フィリピンのメディア事情が分からなかったりして、なかなか発言できなかったのが残念ではありましたが、プレゼンの練習がよくできたのは凄く良かったです。

<主な成績評価>

ディスカッションリーダーシップ ×2 回(グループ)

クリティカルエッセイ 1,500 語 ×1 回(個人)

オーディエンスカンファレンス ×1 回(グループ)

・ Theories of Human Communication

コミュニケーションに関する理論は沢山あるので、始めに 1 人 1 つずつ理論を割り当てられ、それについて先生が提示してくれた資料や自己リサーチを通して、理解を深め、授業でクラスメイトみんなに、その理論を自身の実体験の実例と共に説明する為のアウトラインペーパーとプレゼン資料の作成をしました。そして、一人ずつ順番に授業それを発表し、また先生が補足説明をしてくれました。一つ一つの理論の概念を理解するのに、リーディングでは時間がかかるので、その代わりに簡潔に分かりやすく解説している YouTube 動画などを観て、内容を予習するようにしていました。また、学期後半は、グループでコミュニケーションに関するリサーチトピックを自由に決めて、文献をリサーチし、今までに学んだコミュニケーション理論の何れかを理論的枠組みとして、考察するリサーチ提案書の作成、プレゼン発表もしました。

<主な成績評価>

小テスト・課題(個人・グループ) ×数回

理論のアウトライン・発表(個人・ペア) ×1・2 回

リサーチ提案書(グループ) ×1 回

・ Elements of Screen Arts

映画には、それを構成している様々な要素(ストーリー、セッティング、撮影技法等)があることをまず先生が、リーディング資料とともに解説し、その後は、それぞれの要素に着目しながら、それらを上手く活用している名作品映画を授業中に視聴しました。そして、それに関して先生がクラスメイトに質問を投げかけて、意見を述べ合ったり、リアクションペーパーを課題として書いたりもしました。授業中に視聴する際は字幕が無く、内容を完全には理解できない為、事前に映画のあらすじや背景を調べて予習していくようにしていました。また、一人ずつ、映画と着目すべき要素を割り当てられ、それに関するプレゼンテーションを行いました。学期後半は、様々な国の映画を順番に視聴し、リアクションペーパーを書きました。日本の映画「おくりびと」も視聴しました。最後には、決められた一つの映画に対して、学んだ要素を参考に映画分析を深めた、ファイナルペーパーを書きました。

<主な成績評価>

授業・クラス内ディスカッション参加

リアクションペーパー2・3 ページ程(個人) × 数回

プレゼンテーション(個人) ×1 回

ファイナルペーパー7 ページ(個人) ×1 回

・ **Social Media Journalism**

リーディングの課題がよくありましたが、ソーシャルメディアについて、データなどに基づいた学術的内容を初めて知れたりしたので、非常に興味深く読めるものが多かったです。また、グループで、AI がジャーナリズムに使用された例を調べてプレゼンテーションをしたり、炎上したフェイクニュースがなぜそうなったのかや、ソーシャルメディアを上手く活用しているジャーナリズムの実例についてのショートエッセイを書いたりもしました。小テストもありましたが、それは簡易的でした。また、ライブポスティングという、何かのイベントを実況する形で、正確で役立つ情報の投稿をソーシャルメディアで実際に行ったり、グループで、あるジャーナリズムに関係するトピックについて、好きなソーシャルメディアを使って、人々にアプローチするファイナルプロジェクト等の実践的な課題も複数あり勉強になりました。さらに、日本人留学生が私ともう1人いたので、日本で有名なフェイクニュースを時系列で説明するプレゼンを、先生に頼まれたりもしました。そして、特にファイナルプロジェクトでは、授業外にグループメイトと話し合うことが多かったですが、そこで自分の思いついた意見をしっかりと言うよう努力したおかげで、最後の結果にも達成感をより感じることができました。

<主な成績評価>

クラスディスカッション(個人)

ショートエッセイ 500 字以内(個人) ×2 回

プレゼンテーション(グループ) ×2 回

小テスト(個人) ×2 回

ライブポスティング(個人) ×1 回

ファイナルプロジェクト(グループ)

< **Second Semester** >

・ **Global Voices and Encounters**

まず始めに、文学的読み方とは何かについてのリーディングがありました。それを元に、授業中や課題を通して、ショートストーリーや詩などの短めの英語文学を読み、それについて文学的考察をし、ディスカッションしました。ディスカッションには、クラス内で手を挙げて行う形式と、同女でいうマナビーのような Canvas というサイトに、先生とクラスメイトたちに見えるよう、意見を投稿する形式がありました。その際に、PDF 化された文学作品に、

ウェブ上で直接、読解分析の注釈を書き入れる課題もありました。また、グループで課された文学について、その中で問題定義されているグローバルイシューを話し合い、プレゼンテーションしたりもしました。そして、先生が提示したいくつかの文学作品から個人で1つ選び、それについて文学的分析をする中間エッセイ、そこにあるグローバルイシューに着目するファイナルエッセイがありました。先生によるとは思いますが、全学部生必修基礎科目なので、私のクラスの先生は、学生の専攻科目に支障が出る様な負担にはならないようにというラフなスタンスが、とてもありがたくて好きでした。

<主な成績評価>

ディスカッション参加(個人)

注釈の記入(個人) × 数回

小テスト(個人) × 数回

プレゼンテーション(グループ) × 数回

中間エッセイ(個人) × 1回

ファイナルエッセイ(個人) × 1回

・ Korean Popular Culture

ポピュラーカルチャーとは何か、から始まり、韓流が大人気になった社会的背景、戦略を、主にリーディングを通して学び、それを先生が授業中に解説して、それについてクラスでディスカッションをしたりしました。グループディスカッションの時間を授業中にたっぷり与えてくれたのが印象的でした。韓流だけではなく、K-POP についてや、韓流戦略のフィリピンへの適用は可能かどうかについてなどもグループで話し合いプレゼンテーションをしたりしました。また、学期の始めと最後に、学んだ内容をまとめるリフレクションペーパーの課題がありました。学期の最後には、グループで授業中に学んだコンセプトを一つ選び、それに関するリサーチトピックを自由に決めて、リサーチペーパーを作成しました。韓国人留学生が1人いた為、現地の子の意見を聞けたり、フィリピン人の K-POP アイドルへの向き合い方と日本人の向き合い方の違いを知れたりもして、また韓流というトピック的にも自分の意見や経験が思いつきやすく、ディスカッションを楽しむ事ができました。

<主な成績評価>

ディスカッション参加(個人) × 数回

入門リフレクションペーパー(個人) × 1回

プレゼンテーション(グループ) × 数回

リサーチペーパー(グループ) × 1回

ファイナルリフレクションペーパー(個人) × 1回

・ Communication for Development

初めに、開発学のためのコミュニケーションとは何かについてのリーディング課題があり、その解説を授業で受けた後、その理解と適用能力を計るペーパーの課題がありました。その後は、社会開発をするにあたって必要な、様々なコミュニケーションの工夫の仕方などを、事例のプロモーションビデオなどを、授業で観たりしながら学び、ディスカッションをしました。そして、その学びを元に、グループで1回目は書き物、2回目は音声、3回目は動画で、それぞれ好きなアドボカシーをPRするコミュニケーション戦略を立て、実際に作成しました。また、先生の知人であるコミュニケーションのプロフェッショナルとして活躍している外部講師の先生も数人来てくださり、ワークショップや講義をしてくださったのが新鮮で面白かったです。先生が政府で勤めていた経歴があり、政治の話がよく出てきたことも勉強になりました。また、学期最後には、自分の好きなアドボカシーを決めてそれに対するコミュニケーション戦略を立てて、それを話す自分のビデオを撮るという課題がありました。そして、たまたま私が履修した学期は、履修した生徒が8人しかいなかったため、超少人数クラスでしたが、その分発言する機会も増えて良かったと同時に、日本の政治や法律などについて自分が全然知らない事を痛感させられました。周りの学生は、政治への意識がとても高かったので、この授業を受けて、政治や社会問題に関する意識がすごく高まりました。そして先生は、本当に優しくて良い人でした。開発学を受けてみたいけれど、政治とかが苦手な不安という私みたいな人に、開発学のスタートとして受ける事をおすすめしたいです！

<主な成績評価>

ディスカッション参加(個人)

ペーパー(個人) ×1回

書き物(グループ) ×1回

音声(グループ) ×1回

動画(グループ) ×1回

ファイナルオーラルリフレクション(個人) ×1回

⑦ クラブ、課外活動、ボランティア活動

アテネオ・デ・マニラ大学は、サークル活動が凄く盛んで、その種類も沢山あります。その中でも私は、留学生をサポートしてくれる国際交流サークル「ASEC」、日本文化交流サークル「Hinomoto」、都市部貧困層の子供達の支援をする「Musmos」の三つのサークルに所属し、特に「Musmos」での活動に一番積極的に参加しました。8月末頃に新歓と一斉募集がありますが、その際に所属をしても、その後のイベントに毎回参加するかしないかは、任意のものが多いので、複数サークルに入っても、無理なく興味のある活動にのみ参加でき

ました。また、イベントを行う回数は、二学期目の方が多かったので、秋春の1年留学をして良かったと思いました。

「ASEC」では、ゲームなどを通して、留学生と現地生との友達作りができる、バディミクサーというイベントに参加したり、海外留学フェアで日本のブース担当をしてみたり、留学生歓送迎会に参加したりしました。「ASEC」のメンバーは、とても明るくてフレンドリーな人ばかりなので、イベントに参加するだけで、凄く社交的になる訓練がされた気がします。「Hinomoto」は、4月にあった夏祭りだけゲストとして参加しました。日本の鬼滅の刃の歌などのライブ公演があったり、ヨーヨー救いや浴衣の貸し出しもしていて面白かったです。沢山の人が集まっていたので、こんなに沢山日本を好きでいてくれる人がいるのだと思うと不思議で、凄く嬉しくありがたい気持ちになりました。

「Musmos」では、子供達が、貧しい環境に囚われずに夢をもち、その夢が叶えられるようにというスローガンのもと、尊敬・共感・感謝などの大切な価値観を学べるアクティビティをしたり、ゲームをして遊んだりする企画を、月1回程度でしており、私は、子供たちのファシリテーターとして、毎月参加しました。このサークルでは、ほぼ説明などはタガログ語のため、話についていけなかったり、最初は子供たちとコミュニケーションが上手く取れませんでした。回を重ねるごとに子供達にも喜んでもらえるような存在になれたことは、凄く自信に繋がり、また継続の重要性を実感できました。

⑧ 現地での住まい

私は、キャンパス内にある International Residence Hall (IRH)しか寮の選択肢がなかったので、二学期ともそこに住んでいました。大学寮の中では一番新しく、比較的綺麗な寮で、留学生と現地生の両方が住んでいます。寮内にカフェテリアや、スタディールームがある事がとても便利で、そこで友達と遅くまで課題をしたり、1人で勉強する際も部屋にいるより、同じように課題をしている周りの学生などを見てやる気を出すことが出来たので、凄く良い環境だったなと思います。部屋は、2人部屋で一学期目は現地生、二学期目は日本人がルームメイトでした。現地の子は、みんなクーラーを低く設定し部屋を寒くする事が多いのですが、その温度調節で苦労している留学生も何人かいました。部屋には、1人ずつセミダブルのベッドと勉強机、椅子、ロッカーがあり、収納できるスペースも十分にあるなと感じました。また、冷蔵庫とシャワー、洗面台も部屋についていました。天井は高めで窓もついてるので、開放感があり結構良い部屋だなと感じていました。また、週に1度、スタッフの方が部屋の掃除に来てくれます。食事は、カフェテリアで夜7時までは買って食べることができ、共同キッチンが一つあるので自炊をしたり、デリバリーも利用しました。ウォーターサーバーが各階部屋の近くや、カフェテリア内にありました。寮内にいつも警備員やスタッフの方々がいるので、安心ですし、何か不備があればすぐに相談することができます。私の部屋だけかもしれないですが、雨がひどい時に窓際から水漏れがあったり、何人かは、シ

ャワーの故障が起きたりしていました。しかし、ほとんどは快適に過ごせました。寮がキャンパス内にあるため教室にもよりますが、徒歩 2 分～8 分くらいでクラスには間に合う距離でした。

⑨ 長期休暇の過ごし方

祝日が重なったりして、1 週間ほどの連休が一学期に 1 回は、ありました。ただ、課題があったりもしたので、私は毎日遊ぶというよりは、寮で勉強する日、ゆっくりする日もありながら、出かける日も設ける感じでした。

11 月にあった連休では、Enchanted Kingdom というフィリピンで有名な遊園地に日本人と留学生の友達と行きました。

一学期終了後に約 1 ヶ月間あったクリスマス休暇では、母の知り合いのお家に滞在し、ゆっくり過ごさせていただき、お家でのクリスマス会に参加したりもしました。その時に、よりローカルな人たちの過ごし方を知る事ができました。また、同女のゼミの先生と相談し、ゼミ課題をしたりもしました。そして、日本人の友達と 2 人でボラカイ島へ 3 泊 4 日の旅行に行きました。ビーチが本当に綺麗で最高でした。自分たちでホテルや行き方、行きたい場所などを一から調べて、旅行に行くことは、留学に来てからが初めてでしたし、海外ということでもさらに挑戦的でしたが、実際に旅行が実現し楽しい思い出ができるのを体験しながら、私にも、友達と 2 人だけでこんな事が実現できるんだと感じ、自信ができました。

3 月にあった連休では、タガイタイという避暑地に世界一小さいタール火山を見に行きました。渋滞や排気ガスなどがあるマニラから少し離れて、落ち着いて空気も綺麗な場所に行き、ゆっくりと景色を観たりしてとても癒されました。

⑩ 留学期間中の就職活動の取り組み

私は留学生活に集中するため、あまり就活はしませんでした。ただ、時間がある時に、今自分が好きなこと、得意なこと、してみたいことはどんな事かを考えてみて、書き出してみたりする自己分析は、2 度くらいしました。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

サークル活動「Musmos」への参加が、一番印象的でしたし、とても良い経験でした。私は子供と触れ合う事が大好きなので、現地の元気な子供たちが本当に可愛くて、癒されましたし、最初は外国人という事で少し驚いて引かれることもありましたが、だんだん仲良くなり、慕ってくれるようになるのが凄く嬉しかったし、やりがいを感じました。また、二学期目からは、私が唯一の留学生だったので、現地学生と沢山英語で話す練習にもなり、毎回参加する直前は少し緊張しましたが、挑戦する感じや、サークルの雰囲気も良くて、毎回凄く楽しかったですし、少しずつ友達も増えて、英語力、社交性も伸ばすことができました。数人友

達ができて、友達作りを終えずに、新しい人と話せる機会があれば、その出会いを大切に、いろんな出会いを楽しむ方が、自分にとってすべて学びにも思い出にもなるので、良いなと思うようにもなりました。また、子供達を家まで送迎した際に、あまりにも貧しそうなお家だったので、いつも元気で可愛い子供達は、日本の子供達と同じ、純粋な子供達なので、生まれた環境だけで、将来の可能性が狭まるのは悲しいことだと感じ、このサークルのスローガンの素晴らしさを感じましたし、全ての子供が同じように色々な可能性を持てる社会・世界になっていくべきだと強く思いました。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

一番辛かったことはやはり、先生や友達が話している英語に全然ついていけず、理解ができなかったり、ディスカッションに全然貢献できなかったり、友達の会話に同じテンポでついていけない事が、すごくもどかしくて、辛かったです。また、友達によっては、会話でタガログ語と英語を結構混ぜて使う子もいたので、その時は理解する余地がないのが辛かったりもしました。でも、分からなくて質問をしたら、先生も友達もみんな優しく教えてくれて、励ましてくれたので、感謝しています。話が分からないと、友達といることが時々疲れるし、辛くなるので、すぐ寮に戻りたくもなりましたが、しぶとく授業後なども友達たちについて行って、一緒にご飯を食べたりしたことで、より仲良くなれましたし、英語力、コミュニケーション力を伸ばすことにも繋がりました。何事も最初から完璧なことはないので、未熟な自分を成長過程と受け入れて、継続して努力する大切さを実感しました。また、スムーズな会話ができないにも関わらず、いつも私に対して優しく接してくれる友達に本当に感謝だと思い、私も日本に帰って留学生などに出会うことがあれば、必ず優しく接しようと思いました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

一番驚いたことは、交通の手段が日本と違い、バイクやジブニーなどがローカルな人々の中では主流なので、道路の排気ガスが酷いと感じたことです。また、道の整備もあまりなされておらず、日本のように綺麗な歩きやすい歩道ではないので、徒歩圏内の場所へも歩いて行きにくく感じたことは、その環境に慣れるまでは不便に感じました。トイレは、やはりに日本に比べて綺麗ではなくて、トイレトペーパーが置いていないことが多かったり、流さずゴミ箱に捨てたり、たまに便座がついておらず座れないものなどもあり、ローカルなお家ではバケツに貯めた水で、勢いで流す方法などあって、キャンパス内は大体普通でしたが、場所によって、その事情を知らずにトイレに行くことと驚くこともあるかなと思います。寮の部屋のバスルームのトイレは場所によって綺麗なところもありました。また、時間感覚も日本人に比べて、ルーズで、そこまで拘らないことが多いので、電車の時刻表がなかったり、イベントごととも開始の 30 分前くらいに集合時間が設定されていることがあって、ゆっくり集まってくる感じだったり、友達との約束も時間に対してのプレッシャーは、人にもよ

りますが、比較的低めでした。ただ、場合によって、時間通りに行かなければならないこともあるので、時と場合によって切り替える感じでした。また、貧困格差にも驚きました。学内には富裕層の学生がほとんどでしたが、外を歩くと、道で物を売っている貧しそうなお店がいたり、ホームレスもいたりして、また車の外からお金の寄付をねだってくる人、ボロボロのお家があったりもしたので、その経済格差に驚き、複雑な気持ちになりました。貧困格差がある国だからか、モールや駅、お店の前などに、警備員が沢山いることにも驚きました。

III. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

アテネオ・デ・マニラ大学は、アジアだけでなくヨーロッパなどいろんな国からの留学生が多く、ASEC が行っている現地生が留学生をペアでサポートしてくれるバディ制度があったり、留学生のためのいろんな企画をしてくれたり、情報を流してくれたりもするので、留学生が安心して来やすい大学だと感じました。ただ、ヨーロッパ圏内の人はその人たちで固まったり、学内寮に住んでいなかったりしたので、積極的にいろんなイベントに行き、自分から人種に関わらず話していくと、より多様な異文化交流ができると思いました。ただ、学内の IRH に住んでいる留学生同士は、会う機会が多いので仲良くなりやすい印象がありました。国際課の人たちも優しく、親身になってサポートしてくれました。ただ、留学生が多い分、対応が遅めの時もあるため、直接事務室に何度も行って解決する方が良いと思います。私立大学ということもあり、比較的キャンパス内も綺麗で緑も多く、自習スペースも沢山あるのが良かったです。ただ、建物によってはクーラーが付いていない教室もあります。また、イベントが沢山あることも楽しかったです。また、クラスでは、必ずクラス全員のグループチャットを作るのと、クラスリーダーが先生とクラスメイトの繋ぎ役もしてくれるので、困ったことがあると、クラスチャットでみんなと相談していたり、先生に質問や締切延長の交渉もしたり、その様子をチャットで確認できることが良かったです。ただ、その会話に時々、タガログ語が混ざっていて、翻訳にかけないと分からないようなこともありました。また、たまに授業で先生がタガログ語を少し使ったり、友達間での会話でもタガログ語を結構英語と混ぜて使う人がいたりして、理解できないこともありました。しかし、私立トップ大学なので、幼少期からタガログ語よりも英語をより使ってきた学生が多いので、フィリピンの中では 1 番英語をよく使う学生が多い大学ということで有名らしいです。また、比較的勉強や積極性への意識が高めの学生が多いなと感じたので、そこで良い刺激を受けたりもしました。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

勉強関連：パソコン、充電器、携帯モバイルバッテリー、資料をまとめるファイル（visa 関係も）、筆記用具、ルーズリーフ、タイマー、メモ用付箋

食事関連：マイコップ、マイ箸、味噌汁インスタント、2 食分のインスタントパスタソースを沢山、電子レンジでパスタを茹でられる容器、インスタントラーメン、シェアできる日本のお菓子

服装関連：冷房が寒い時用のパーカー、長袖 1~2 枚、ジーンズ、帽子、水着、洗濯のしやすい夏服、サンダル、運動靴、綺麗なシャツ 1 枚、折り畳み傘（晴雨兼用）

生活用品：室内とバスルーム用のスリッパ、シャンプー、洗顔用品、メイク道具、枕カバー、タオルブランケット、バスタオル、タオル、延長コード、常備薬、マスク

その他：家族や友達の写った飾れる写真、小さい落ち着くぬいぐるみ

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

語学面：留学に行く前に英検準一級、IELTS6.0 というスコアは持っていましたが、実際に現地に行き、英語を使う際には、なんとなく簡単なやりとりができたくらいで、相手の話や会話、授業内容があまり理解できなかつたり、アカデミックなディスカッションではどう考えを英語にしたら良いかが分からず全然発言することができませんでした。しかし、何度も積極的に現地生や留学生たちと、簡単なことから会話をしたり、グループ課題でチャットをよく使ったので、他の学生の英語の使い方や、よく使うフレーズを学んだりして、会話の仕方が少しずつ分かってきて、聞き返すことや、すぐ言葉が出てこないことはまだまだありますが、日常会話はほぼ問題なくできるようになり、海外の人と英語で話すことへの躊躇もほとんどなくなりました。また、プレゼンテーションが多かったので、人前で英語で発表することにも、まだ緊張はしますが、だいぶ慣れました。また、リーディングやレポートも多かったので、アカデミックなものへのハードルは最初は高かったですが、回を重ねるごとに慣れて、拒否感も薄れていき、前よりスムーズに読み、書けるようになりました。

性格・思考・行動：留学前は、自分に自信がなくて、頼りない存在だなと感じていたのもっと頼もしい人になりたいと思い留学に行きました。そのため、留学中は、以下のように変化していく自分を感じました。

・周りにいる人達に声をかけ助けを求めることも含めて、自分自身で問題解決をするようになりました。

・サークル活動に積極的に参加している留学生は少なかったのですが、私は継続して挑戦しました。

・慣れてきたらローカルな交通手段を活用して 1 人でも出かけたり、自炊をしたり、1 年間いろんなことに挑戦し海外生活をやり切りました。

これらのことから、自分の可能性を実感し、ある程度自立できるようになったとも感じて、自分に自信が付きました。また、フレンドリーで友達作りを厭わない人が現地生や留学生を含めて、周りに多かったのも、私も社交性が上がったなと思いますし、新しい出会いや友達作りが好きになりました。また、フィリピン人はいつも明るくて、何事も楽しもうとする人

が多かったので、私も色々心配なこともあるけど、必ずなんとかはなるから、心配しすぎず、とりあえず出来ることはして、楽しめることに目を向けて楽しもうと思えるようになりました。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

どの国に行っても、長期でも短期でも、一度自分が生まれ育った時からいる環境から抜け出して、全く違う国へ行き、その文化や生活環境を体験することは、今までの自分の中の当たり前を覆してくれ、価値観も広がる、とても価値ある貴重な経験だと思うので、今もし迷っている方がいたら、私はぜひ留学することをお勧めします。そして、もし留学するとなったら、違いにぶつかりしんどいことも沢山ありますが、その違いに興味を持ち、新しい文化や価値観を知ること、学べることをその環境の中で存分に享受して欲しいなと思います。そのためにも、興味があることがあれば、どんどん挑戦し、いろんな経験をすることで留学期間を最大限に活用して欲しいです。また、もし長期か短期で迷っている方がいたり、環境に慣れるのに時間がかかるタイプの方がいて、もし選択肢があるのであれば、私は長期をお勧めします。一学期目の期間では、消化不良だった文化の違いだったり、大学生活などを、二学期目に消化することができ、より多様な経験もできて、自信もついたと感じているからです。

もし既に留学準備をされている方は、留学前は不安なことだらけで、自信がなくなったり、挫けそうになることもあると思いますが、みんな分からないことだらけなので安心してください。挑戦しようとしている時点で素晴らしいと思います！留学先で出会える素敵な人々がきっと未来で待っていますし、また同じように留学に行くため頑張っている海外の子たちもいるかもしれないと思い、ご自身が留学に行きたいと思ったその時を、何度も振り返り、頑張りたいです。心から応援しています。

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

まだ、どんな職種や業界に行きたいかは全然決まっていないのですが、就職は日本でしたいなと考えおり、何かしら海外の方と関われる仕事や、日本と外国を繋げられるような仕事に興味を持っています。そして、何か一つ、日本でも海外でもどちらでも通用するようなスキルを身につけて、磨きたいなと漠然と思っています。今は、まだそれが何かを模索中ですが、今のところは、コミュニケーションや、写真撮影技術を磨いてみたいと思っています。また留学に行き、日本のことをあまりにも知らないと感じたので、歴史や文化、政治経済ニュースなどに少しずつでも興味を持ち続けて、海外の方にも話せるくらいになりたいという目標があります。またお金を貯めて、いろんな国に行ってみたくです。

V. 写真



これは都市部の貧困層の子供達のための慈善活動サークル「Musmos」での活動が、クバオという地域で行われた時の写真です。大体7歳から14歳の子が参加していて、子供達のエネルギーにいつも体力は消耗しますが、癒されて心はすごく元気になっていました。



これはバディたちと初めてお出かけした時の写真です。BGC（Bonifacio Global City-マニラ首都圏内のタギック市にある商業地区）という、凄く発展していて東京みたいに綺麗な場所で、いろんなお店やレストランがあります。真ん中の子が現地のバディで、端は私ともう1人の日本人の子です。バディ達はいつもお互いを支え合い助け合える素敵な関係でした。



これは私の誕生日の時に留学生の友達たちとディナーを食べに行ったときの写真です。海外でできた仲よしの友達が、私の誕生日を祝うため集まってくれて、素敵なひと時を過ごせたことがとても嬉しくてありがたかったです。